

田原本町
第 5 次総合計画策定に関する
住民アンケート調査報告書

令和 8 年 3 月

田原本町

1 アンケート調査の概要

1-1 調査の目的

目的について記載する。

1-2 調査概要

- 調査対象者：町民 2000 人
- 調査期間：令和 7 年〇月〇日～令和 7 年〇月〇日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による記入／Web フォームによる回答

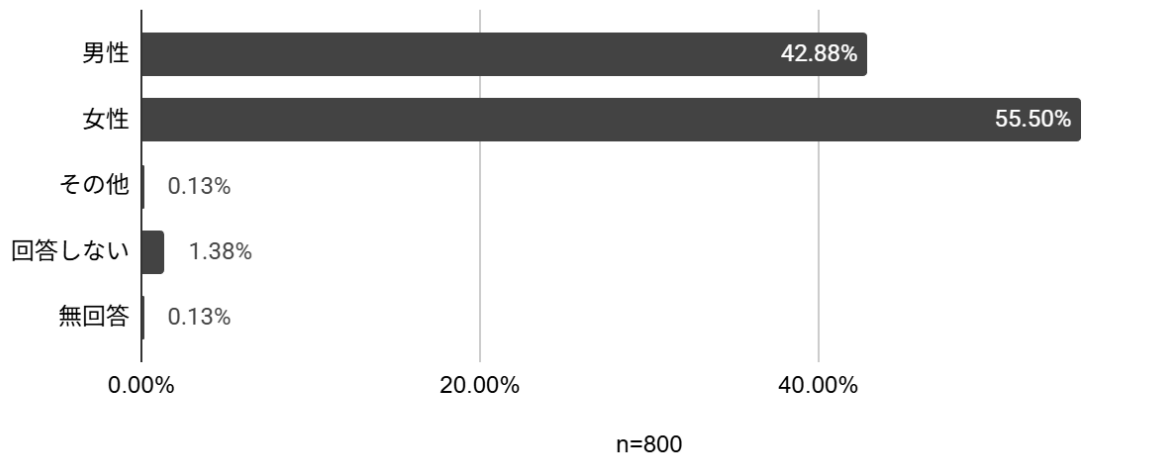
1-3 回収結果

- 配布数：2000 件
- 有効回収数：800 件
- 有効回収率：40%

2 アンケート調査結果

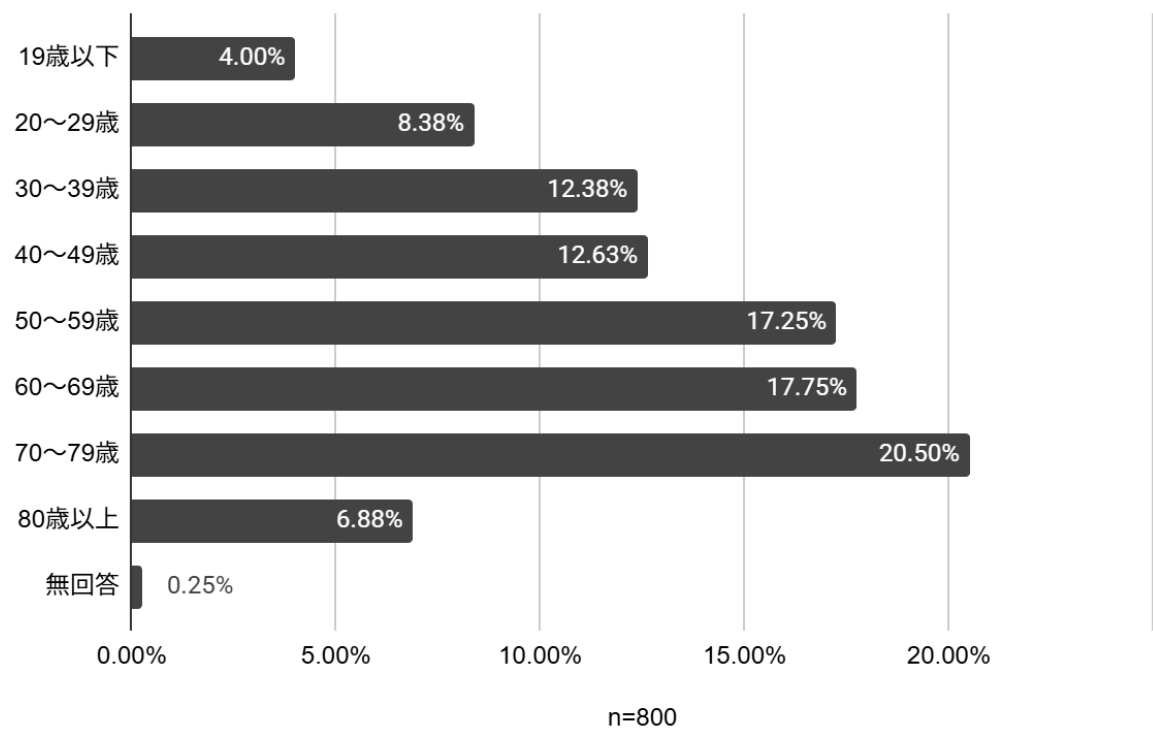
2-1 あなた自身のことについて

Q1 あなたの性別はどちらですか。（いずれか1つを選択）



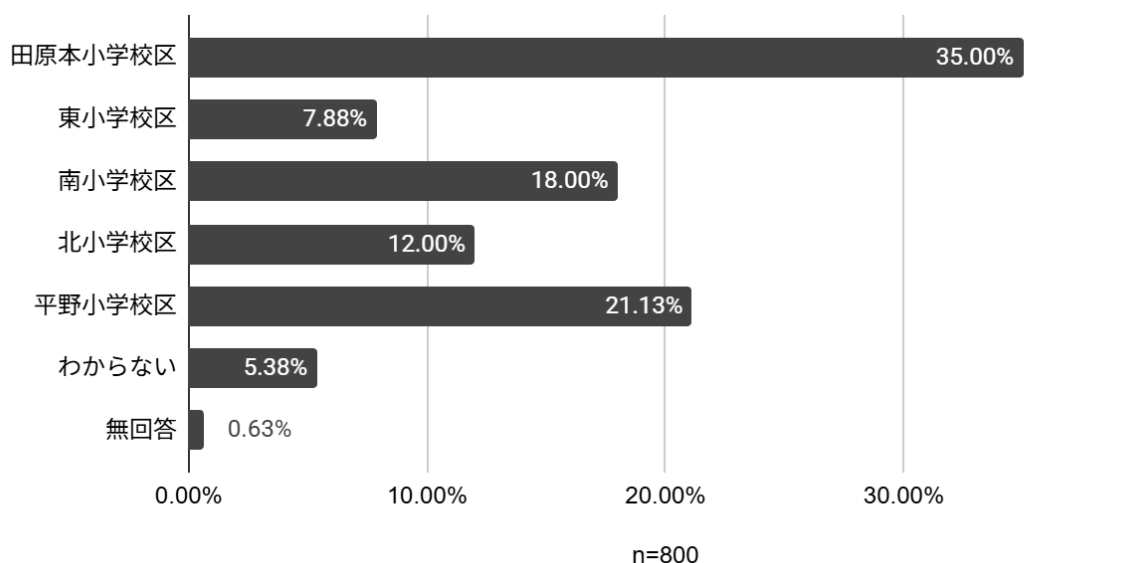
回答者の性別は男性が 42.9%、女性が 55.5%となっており、女性の回答がやや多い。

Q2 あなたの年齢はどの階層に属しますか。（いずれか1つを選択）



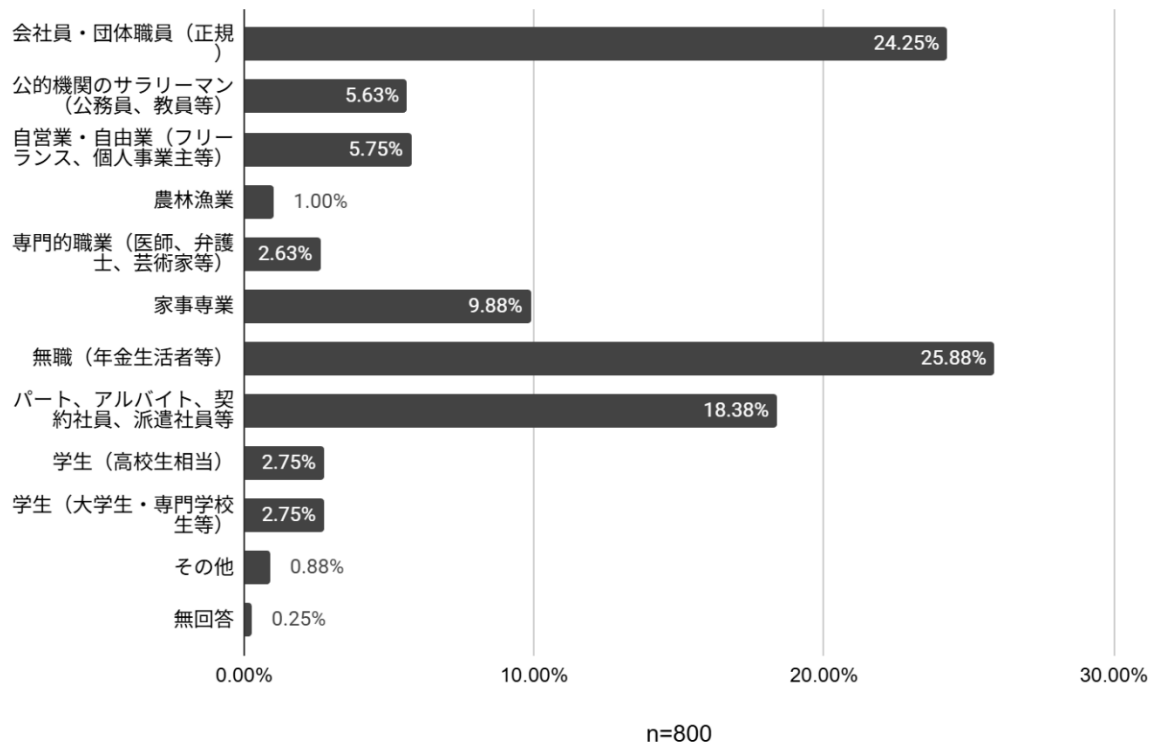
回答者のうち「70～79 歳」が 20.5%と最も高い割合を占めており、次いで「60～69 歳」(17.8%)、「50～59 歳」(17.3%)と、中高年層・高齢層の意見が強く反映されている。「30～39 歳」(12.4%)、「40～49 歳」(12.6%)の子育て世代からの回答も全体の約 4 分の 1 を占めている。

Q3 あなたのお住まいは、どの小学校区ですか。(いずれか 1 つを選択)



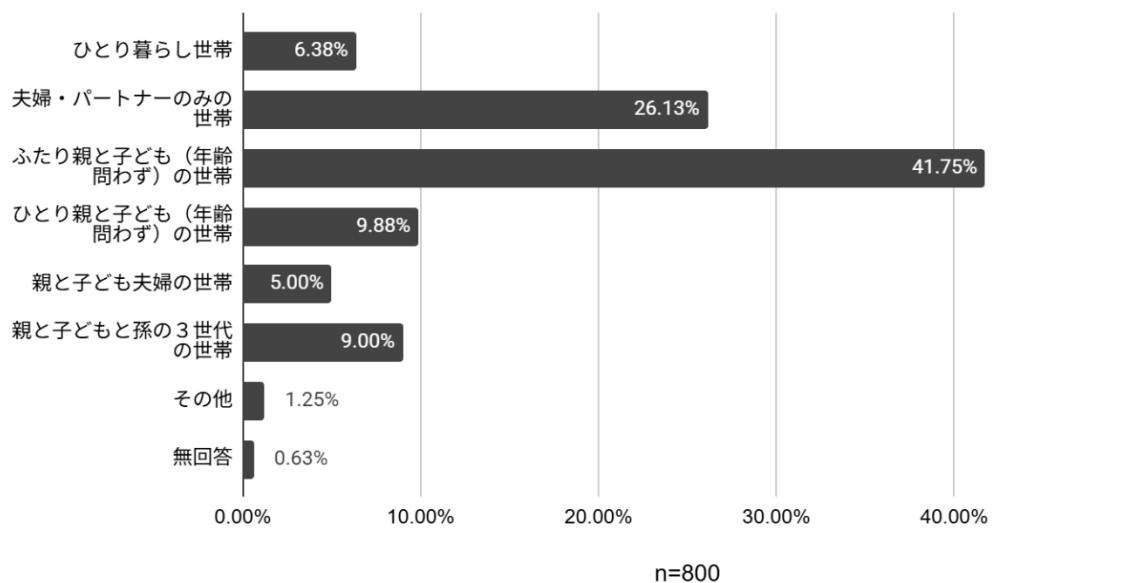
回答者の居住地区は「田原本小学校区」が全体の 35.0%、「平野小学校区」が 21.1%を占め、この 2 地区で全体の半数以上 (56.1%) の回答が集まっている。一方で、「東小学校区」が 7.9%、「北小学校区」が 12.0%と、回答率に偏りが見られる。

Q4 あなたの主な職業(兼業の方は収入の多い方)は何ですか。(いずれか 1 つを選択)



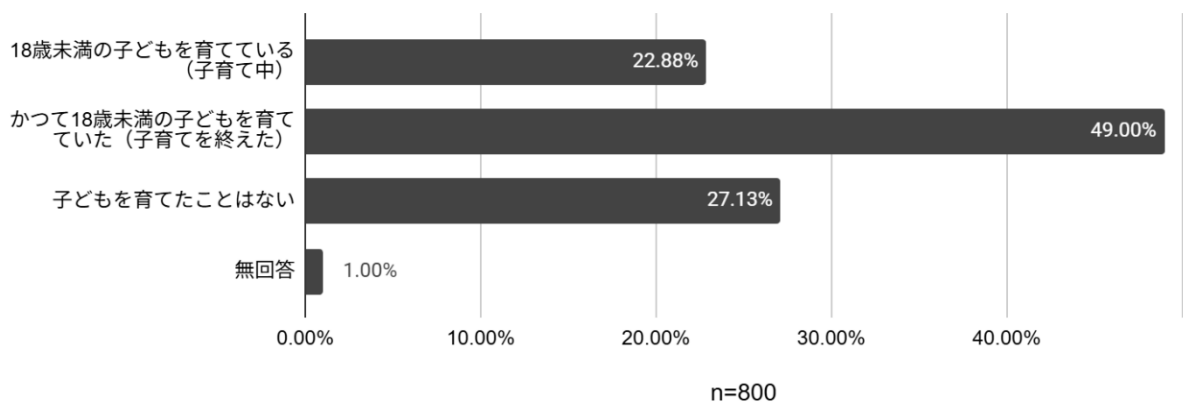
最も多かった回答は「無職（年金生活者等）」で、回答数 207 件。全体の 25.9%を占めている。次いで「会社員・団体職員（正規）」が 194 件、さらに「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員等」の 147 件と「家事専業」の 79 件を正規の会社員・団体職員と合わせると、現役世代の回答者が大部分を占めていることがわかる。

Q5 あなたの世帯はどれにあてはまりますか。（いずれか 1 つを選択）



「ふたり親と子ども（年齢問わず）の世帯」が41.8%と全体の4割以上を占めており、子育て世帯からの回答が多かった。「夫婦・パートナーのみの世帯」が2番目に多い26.1%で、全体の約4分の1を占めている。この世帯は、若年層から高齢層まで幅広く含まれる可能性があり、子育てを終えた世帯や、高齢の夫婦のみの世帯への生活支援、健康維持、地域交流といった幅広いニーズがあると考えられる。

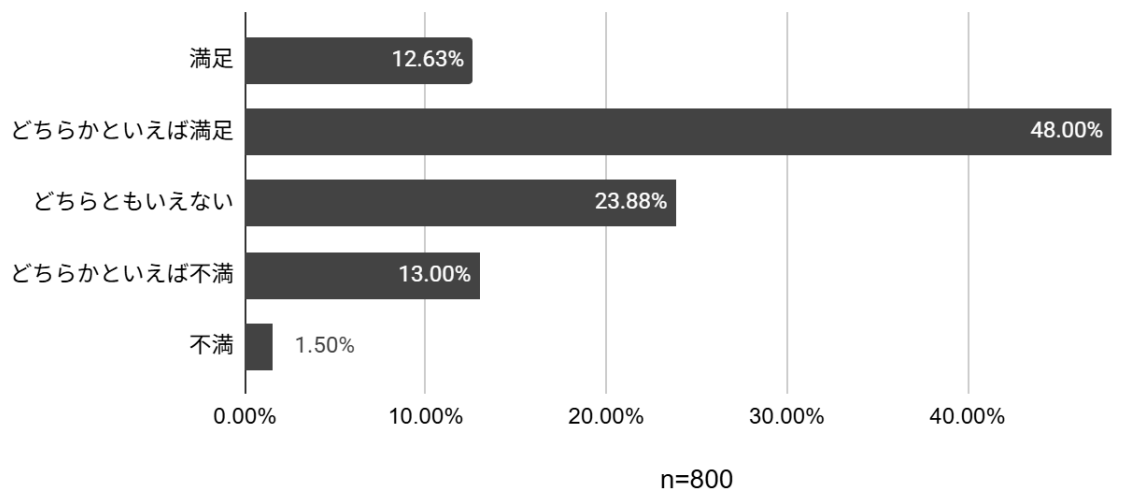
Q6 あなたの現在の状況に最も近いものを選んでください。（いずれか1つを選択）



回答者の約49.0%が子育てを終えた層であり、現役の子育て層と子育て未経験層が約4分の1ずつとなっている。子育てを終えた層の生活の質を維持・向上させる施策と、現役子育て層を支援し定住を促す施策、そして子育て未経験層を含めた多様な住民ニーズに対応する施策のバランスが重要になる。

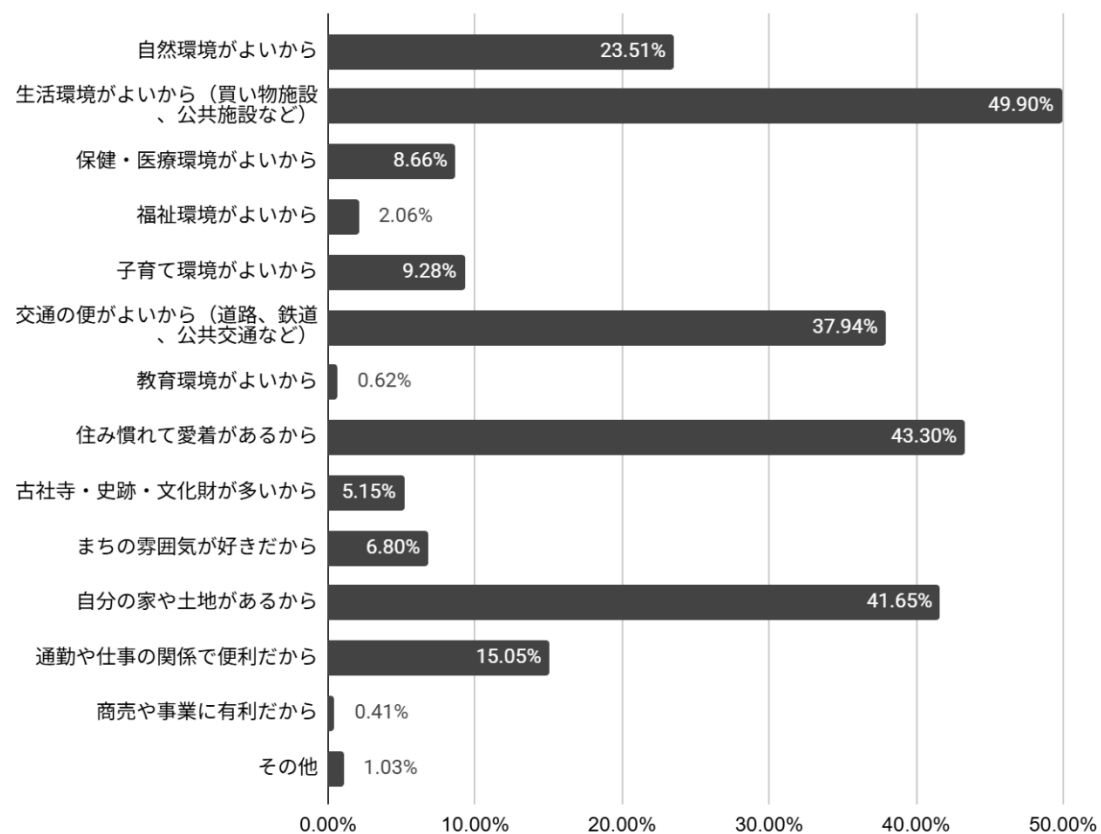
2-2 田原本町の暮らしやすさについて

Q7 田原本町での現在の暮らしやすさをどのように感じていますか。（いずれか1つを選択）



「満足」＋「どちらかといえば満足」の60.6%の町民が、現在の田原本町での暮らしやすさに肯定的な評価をしている。「どちらかといえば不満」＋「不満」と回答した不満層は少数だが、この層が感じている具体的な課題を把握し、対応することが重要。一方で約4分の1の町民がどちらともいえないと回答しており、今後の施策によって満足度を高める余地がある層と考えられる。

Q8 Q7で「満足」、「どちらかといえば満足」とお答えの方におたずねします。その理由は何ですか。（3つまで選択）



n=485

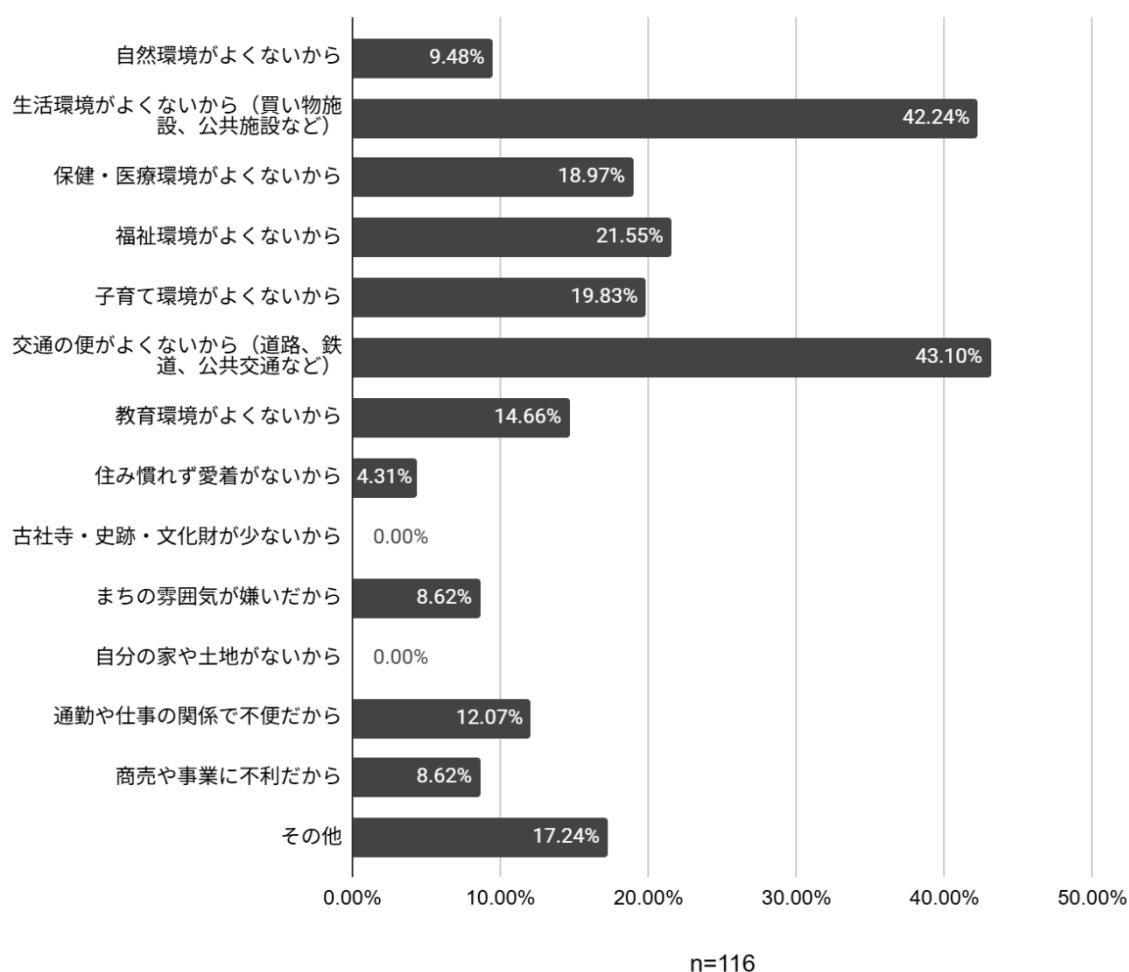
● 「生活の利便性」と「定住への思い入れ」が上位に

生活環境がよいから（買い物施設、公共施設など）が最も高く、次いで「住み慣れて愛着があるから」、「自分の家や土地があるから」が僅差が続いている。長年の居住による地域への愛着や、持ち家・土地という経済的な要因が、強い満足感につながっていることがわかる。

● 行政サービス関連を選択する住民が少ない

「子育て環境がよいから」「保健・医療環境がよいから」「福祉環境がよいから」「教育環境がよいから」といった行政サービスや特定の分野に関する満足理由は、総じて10%未満と低い水準に留まっている。生活の基本的な利便性や個人の定住要因に比べ、これらの分野の提供レベルに対する満足度が相対的に低いか、あるいは、これらの分野を「満足の主な理由」として挙げる住民が少ないことがわかる。満足度をさらに向上させるためには、これらの行政サービス分野の充実が課題となる可能性がある。

Q9 Q7で「どちらかといえば不満」、「不満」とお答えの方におたずねします。その理由は何ですか。（3 つまで選択）

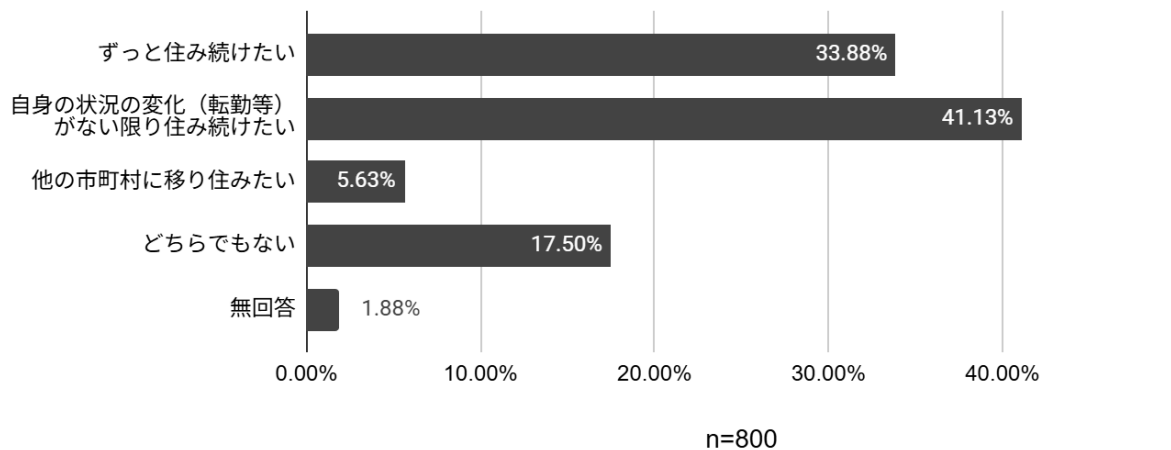


● 「交通の便」と「生活環境」への不満が二大要因

「交通の便がよいから（道路、鉄道、公共交通など）」が 50 件で最も多く、公共交通機関、道路状況、またはその両方に大きな課題を感じている住民が一定数いることがわかる。

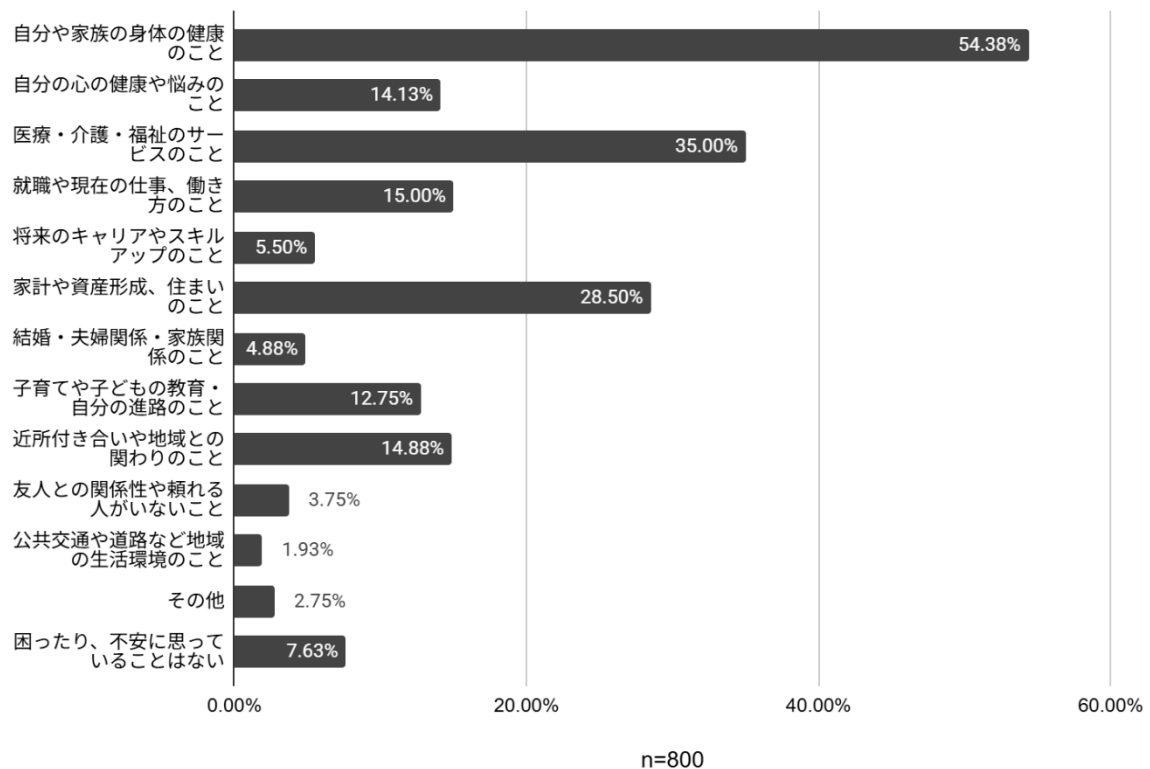
「生活環境がよいから（買い物施設、公共施設など）」も 49 件で 2 番目に多く、日常生活に必要な施設（特に買い物施設）の不足や利便性の低さが、不満に直結していると考えられる。

Q10 あなたは、今後も田原本町に住み続けたいと思いますか。（いずれか 1 つを選択）



「ずっと住みたい」（33.8%）と、「自身の状況の変化（転勤等）がない限り住みたい」（41.2%）を合わせると、75.0%の住民が田原本町への定住意向を持っていることが分かった。現在の町の環境や暮らしやすさに対する一定の満足度を示唆していると考えられる。特に「自身の状況の変化がない限り住みたい」という回答が最も多く、現状維持を望む層が厚いことがわかる。

Q11 あなたが日常生活の中で困ったり、不安に思ったりしていることは何ですか。（3つまで選択）



● 「健康」に関する不安が圧倒的最多

「自分や家族の身体の健康のこと」が、他の項目を大きく引き離して最多。全世代を通じて、特に高齢化が進む地域において、健康維持に対する関心と不安が高いことを示唆している。2位の「医療・介護・福祉のサービスのこと」も、健康と密接に関連しており、町民が「安心して暮らせる医療・介護体制」の確保に強いニーズを持っていることがわかる。

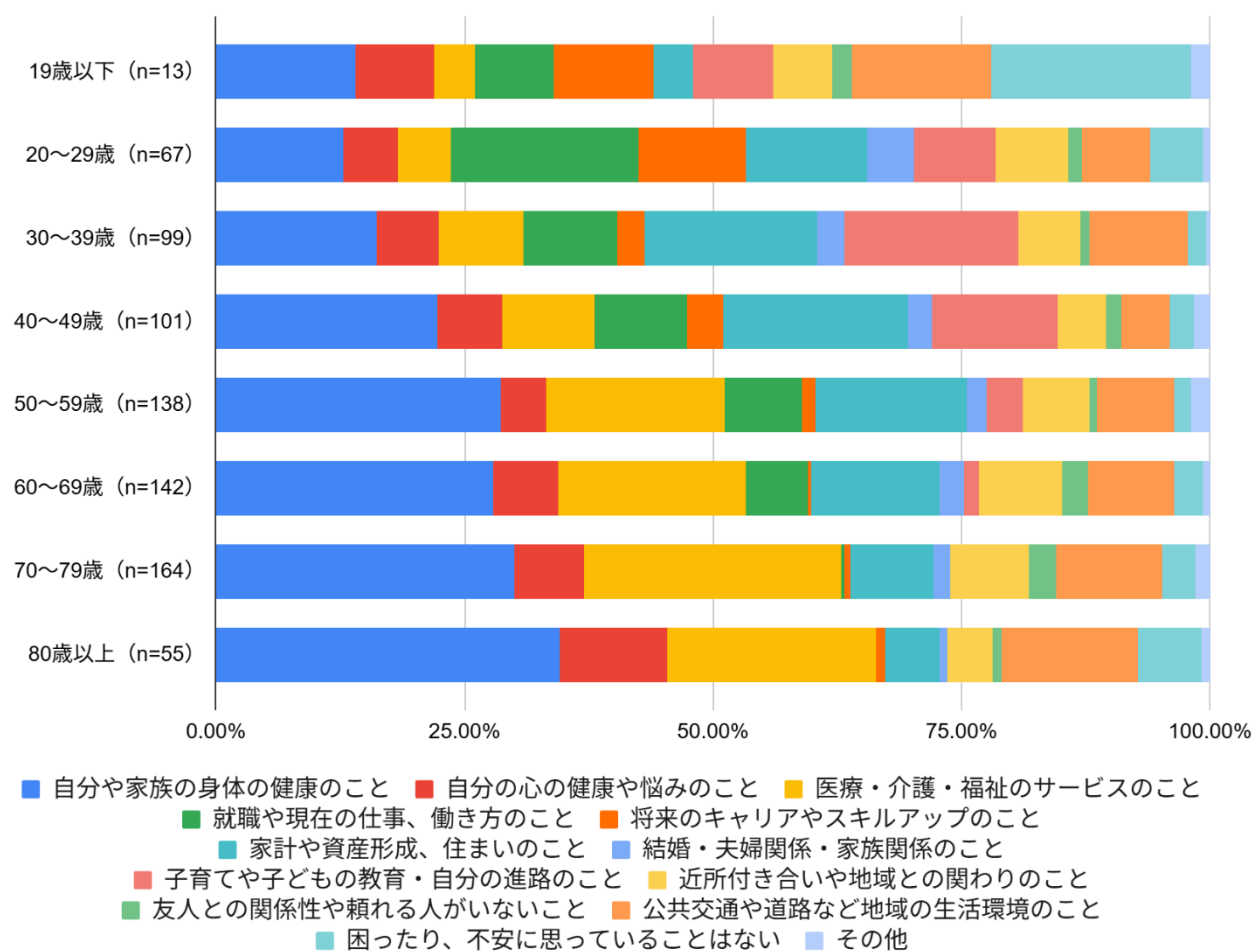
● 経済的な課題と生活環境への不安

3位の「家計や資産形成、住まいのこと」は、物価高や将来への経済的な不安が生活に影響を落としている実態を反映している。4位の「公共交通や道路など地域の生活環境のこと」は、特に高齢者や車を運転しない層にとって、日常の移動手段やインフラの利便性・維持管理が重要な課題であることを示している。

● 社会的なつながりについての課題

「就職や現在の仕事、働き方のこと」と「近所付き合いや地域との関わりのこと」が同水準で高いことは、生活の安定（仕事）と社会的なつながり（地域活動）の両面で課題を感じている人が多いことを示唆している。

Q11 年齢別クロス



19 歳以下 (n=13)	7	4	2	4	5	2	0	4	3	1	7	10	1
20～29 歳 (n=67)	19	8	8	28	16	18	7	12	11	2	10	8	1
30～39 歳 (n=99)	36	14	19	21	6	39	6	39	14	2	22	4	1
40～49 歳 (n=101)	55	16	23	23	9	46	6	31	12	4	12	6	5
50～59 歳 (n=138)	88	14	55	24	4	47	6	11	21	2	24	5	6
60～69 歳 (n=142)	84	20	57	19	1	39	7	5	25	8	26	9	2
70～79 歳 (n=164)	107	25	92	1	2	30	6	0	28	10	38	12	5
80 歳以上 (n=55)	38	12	23	0	1	6	1	0	5	1	15	7	1

● 若年層（10代～40代）の主な関心事

若年層、特に10代から40代では、将来の生活基盤やキャリアに関する不安の割合が高くなっています。「家計や資産形成、住まいのこと」：20代（12.2%）から40代（18.6%）にかけて高い割合を示し、特に30代・40代で最大の不安項目の一つとなっています。これは、住宅取得や子育てに伴う経済的な負担が大きいことを示唆しています。「子育てや子どもの教育・自分の進路のこと」：30代（17.5%）と40代（12.6%）で突出して高く、現役子育て世代の悩みであることが明確です。「就職や現在の仕事、働き方のこと」：20代（18.9%）で最も高く、次いで30代・40代・50代でも一定の割合（約6%～9%）を占めており、労働市場やキャリアに関する不安が広範に存在していることがわかります。

● 中高年層（50代以上）の主な関心事

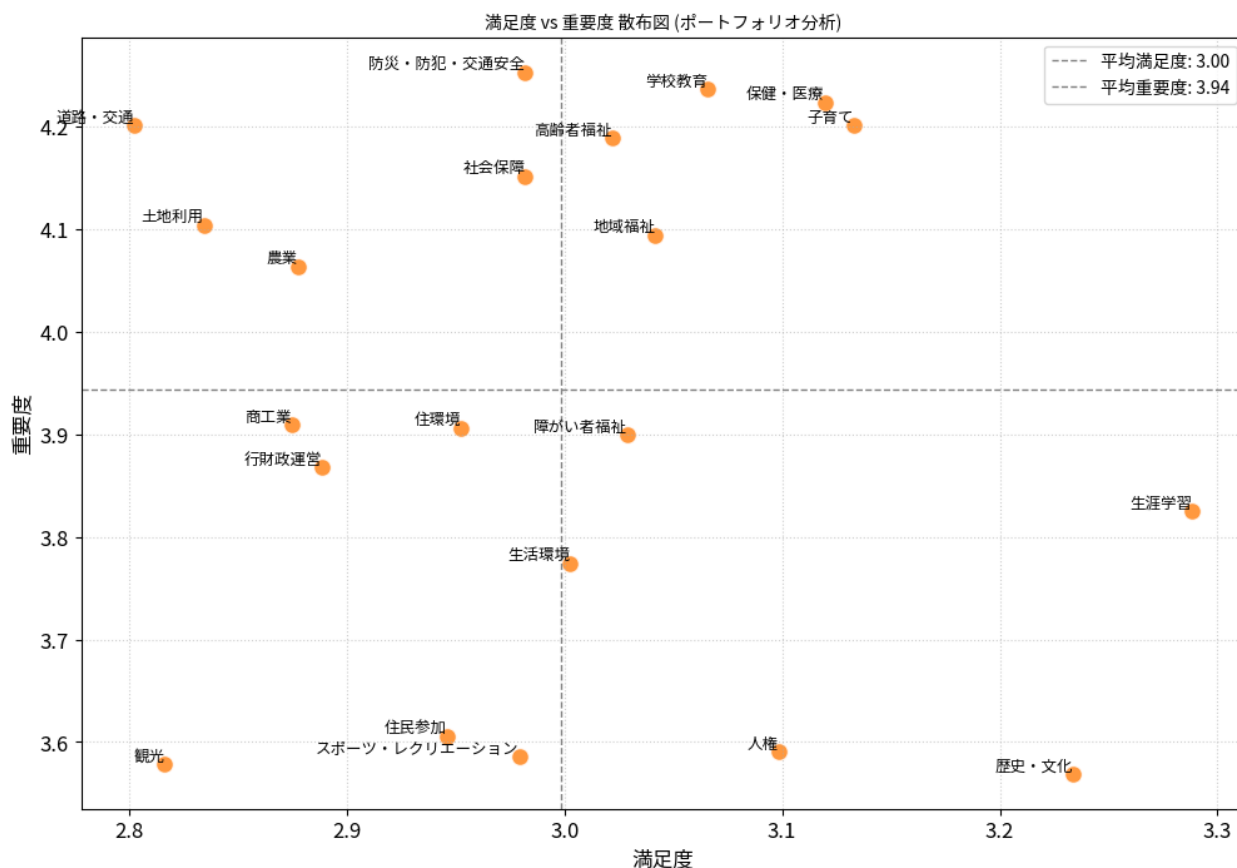
50代以上では、健康や地域生活を支えるインフラ・サービスに関する不安が中心となっています。「自分や家族の身体の健康のこと」：年齢が上がるにつれて割合が上昇し、70代（30.1%）と80歳以上（34.5%）で最大の不安項目となっており、全世代を通じて最も回答数の多い項目です。「医療・介護・福祉のサービスのこと」：こちらも年齢とともに割合が急増し、60代（18.9%）、70代（25.8%）、80歳以上（20.9%）で非常に高い関心事となっています。健康への不安が、具体的なサービスの充実を求める声につながっていると推測されます。「公共交通や道路など地域の生活環境のこと」：70代（10.7%）と80歳以上（13.6%）で割合が高く、高齢になるにつれて、自家用車以外の移動手段や生活インフラに対する不安が増していることがうかがえます。

2-3 第4次総合計画の評価について

Q12 第4次総合計画(平成29年度～令和8年度)では、「子どもから高齢者まで誰もがいきいきとした暮らしを楽しむまち たわらもと」を将来像に掲げ、以下の6つの基本目標に基づき様々な取り組みを行ってきました。それらの過去10年間の取り組みの内容について、現在の満足度と今後の重要度をお聞かせください。（それぞれ1つずつ選択）

基本目標	政策	満足度	重要度
------	----	-----	-----

子育ての願いをかなえる まちづくり	子育て	3.13	4.20
	学校教育	3.07	4.24
健康で安心な暮らしを支 えるまちづくり	地域福祉	3.04	4.09
	高齢者福祉	3.02	4.19
	保健・医療	3.12	4.22
	障がい者福祉	3.03	3.90
	社会保障	2.98	4.15
潤いや喜びを与える学び とスポーツのまちづくり	生涯学習	3.29	3.82
	スポーツ・レクリエーション	2.98	3.59
	歴史・文化	3.23	3.57
	人権	3.10	3.59
安全で快適な暮らしを支 えるまちづくり	土地利用	2.83	4.10
	道路・交通	2.80	4.20
	住環境	2.95	3.91
	生活環境	3.00	3.77
	防災・防犯・交通安全	2.98	4.25
賑わいと活力あふれるま ちづくり	農業	2.88	4.06
	商工業	2.87	3.91
	観光	2.82	3.58
住民とともに実現するま ちづくり	住民参加	2.95	3.61
	行財政運営	2.89	3.87



【重点改善領域】（重要度：高／満足度：低）

住民の期待が高いにもかかわらず、現状の満足度が低い、最も優先的に取り組むべき課題領域である。

- 防災・防犯・交通安全：重要度 77.26%（全項目中最高）に対し、満足度は 19.63%と極めて低い。これは本調査における最も重大な発見であり、住民が日々感じる安全への脅威が、前計画では解消されなかったことを示している。
- 道路・交通：自由記述でも道路の狭さや公共交通の不足が多数指摘されており、生活の質を直接的に損なっている最優先の改善課題である。
- 土地利用：特に「田原本駅周辺のまちづくり」への不満が大きく、町の顔となるエリアの再整備が急務である。
- 農業：町の基幹産業でありながら、住民の満足度は極めて低く、担い手育成を含めた抜本的な振興策が求められる。
- 商工業、観光：これらの産業振興分野も、重要視する声に対して満足度が低く、町の活力を生み出す上で改善が急がれる領域である。

【維持・発展領域】（重要度：高／満足度：高/中）

住民から高く評価され、かつ重要視されている 町の強みといえる領域 である。引き続き質の高いサービスを提供し、さらに発展させていくべき分野である。

- 保健・医療：住民の最大の不安である健康問題に直結しており、この分野の高い評価は住民の安心感の基盤となっている。
- 高齢者福祉：高齢化が進む中で、地域包括ケアシステムの推進など、質の高い福祉サービスの維持・向上が不可欠である。
- 子育て・学校教育：未来への投資として、これらの分野への継続的な注力が求められる。

【現状維持・効率化領域】（重要度：低／満足度：高/中）

満足度は比較的に高いものの、住民の優先順位は相対的に低い領域である。現状のサービスレベルを維持しつつ、より 効率的な運営を検討すべき分野 である。

- 生涯学習：一定の満足度を得ており、現状のサービスを効率的に継続することが望まれる。
- 歴史・文化：町の魅力として認識されているが、他の生活直結型の課題に比べると優先度は低いと捉えられている。

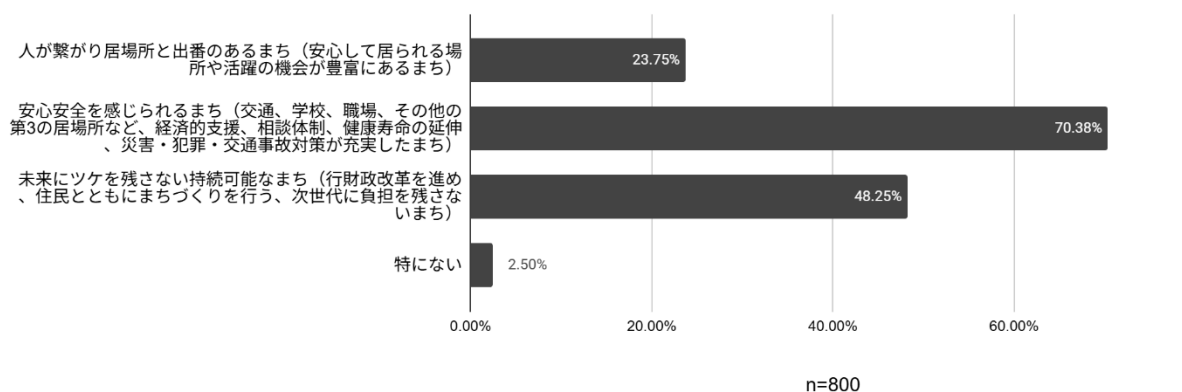
【見直し・再検討領域】（重要度：低／満足度：低）

住民からの重要度・満足度が共に低い領域である。施策の 必要性や内容、リソース配分の見直しを検討すべき分野 と言える。

- スポーツ・レクリエーション：他の施策と比較して優先度が低いと認識されている。

2-4 まちづくりに関する今後の方向性について（次期総合計画への重点取組み項目把握）

Q13 町長が掲げる「田原本の次なる 3 つの未来」について、あなたが特に重要だと感じるものはどれですか。（複数回答可）



● 「安心安全を感じられるまち」が圧倒的多数

全体の回答の中で最も多く選ばれており、住民の生活基盤に対する関心の高さがうかがえる。この項目には「交通、医療、災害対策」などが含まれており、日々の生活における物理的な安全や、健康・福祉といったセーフティネットの充実を最優先事項と捉えている住民が多いと考えられる。

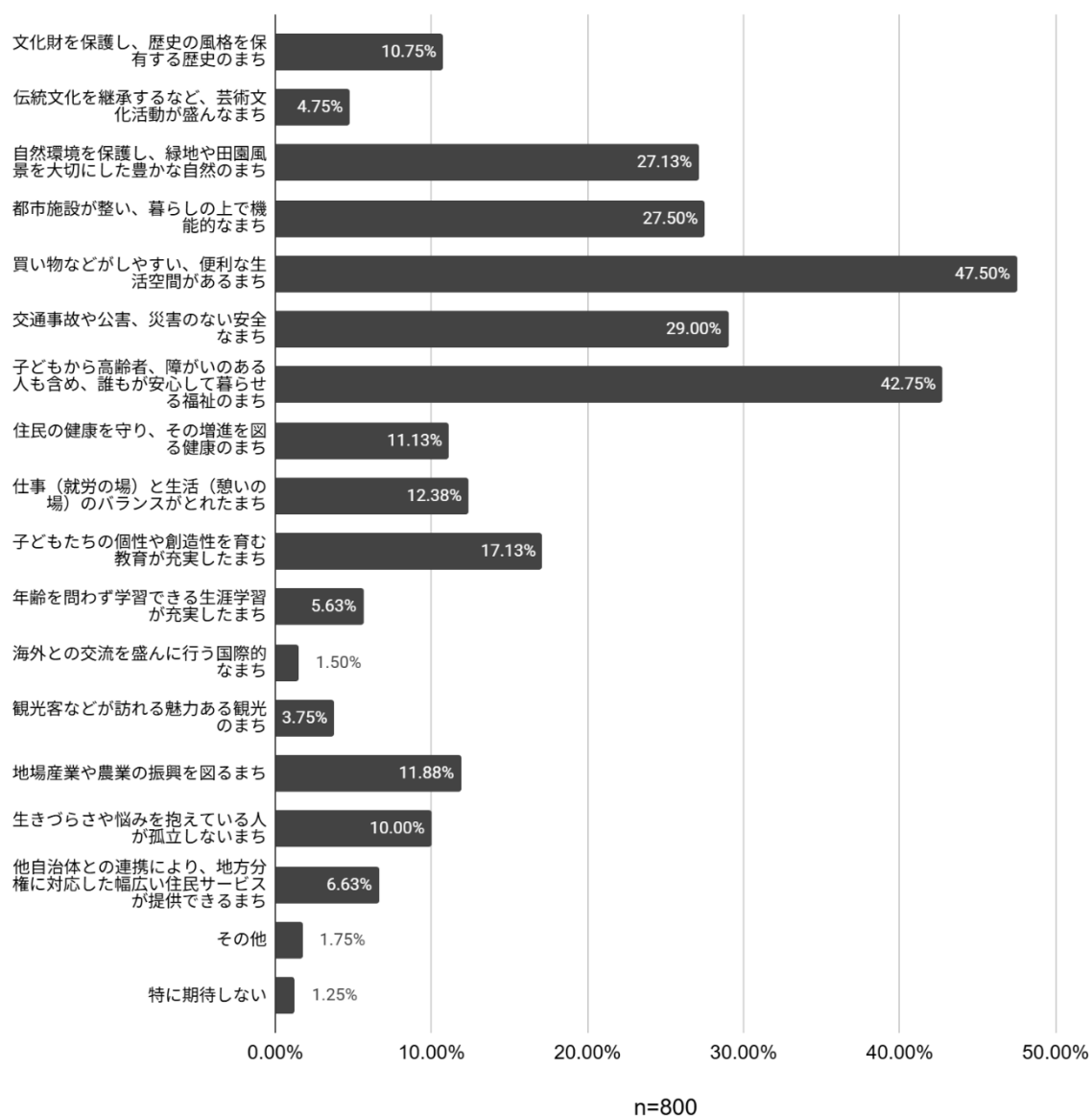
● 「未来にツケを残さない持続可能なまち」も強い支持

行財政改革や次世代への負担軽減といったテーマが含まれており、現在のサービス維持だけでなく、町の将来的な存続や財政健全化に対する意識も高いことが読み取れる。

● 「人が繋がりが居場所と出番のあるまち」は一定の支持

上位2つと比較すると票数は少なめだが、約2割程度の支持を集めている。ハード面やシステム面が満たされた上での、ソフト面（コミュニティ・生きがい）としての位置づけ、あるいは高齢者や子育て世代といった特定の層からの強いニーズがある可能性がある。

Q14 今後、田原本町が目指すべきまちの将来像として、あなたが期待するものは何ですか。（3つまで選択）



● 暮らしの「利便性」と「福祉・安心」への高い期待

最も多く選択されたのは「買い物などがしやすい、便利な生活空間があるまち」であり、日常生活における利便性の向上に対するニーズが最も高いことが明確になった。日々の生活を送る上で、商業施設へのアクセスや生活インフラの整備が、住民の満足度を大きく左右することを示唆している。次いで「子どもから高齢者、障がいのある人も含め、誰もが安心して暮らせる福祉のまち」が僅差で続き、福祉サービスの充実とセーフティネットの強化が、住民の安心感を支える基盤として強く求められていることが分かる。

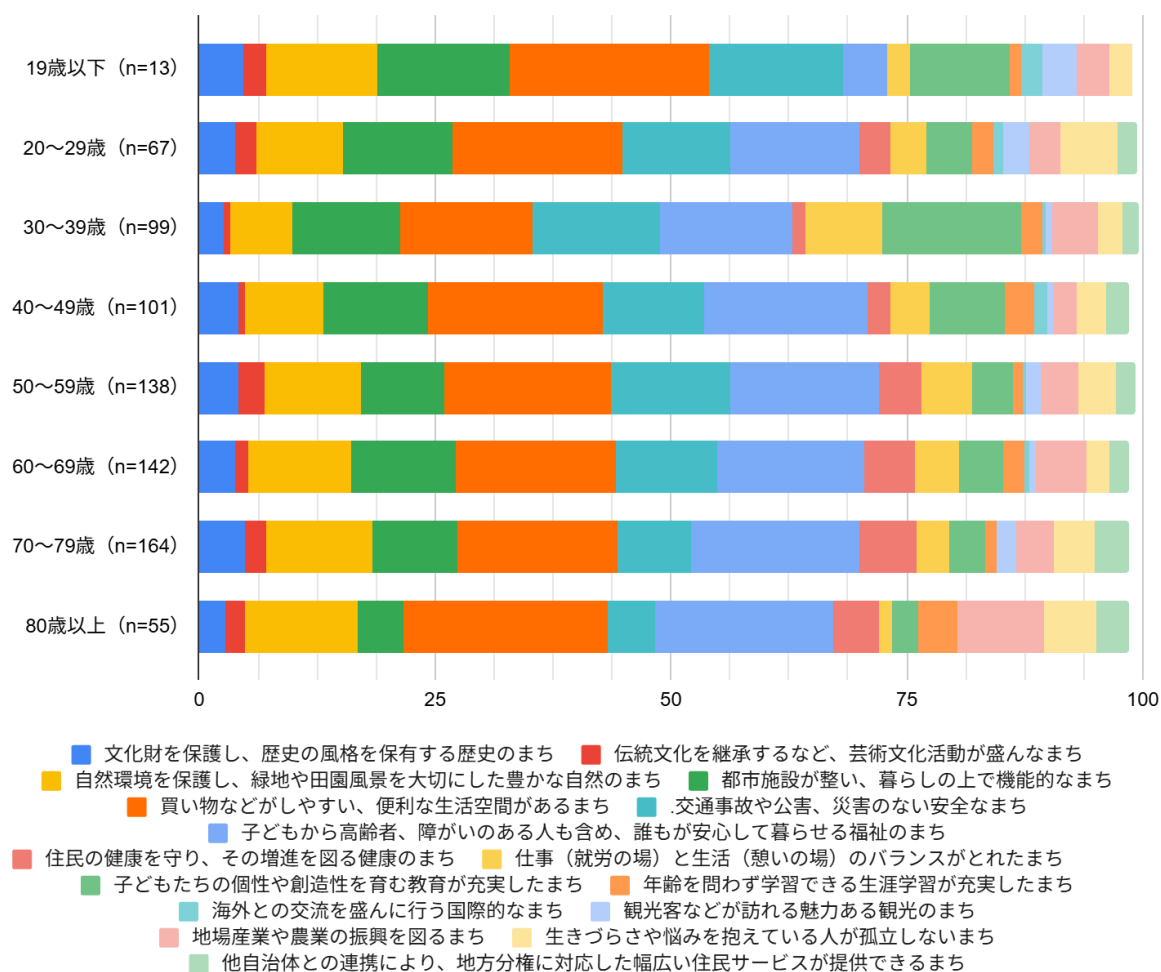
- 「安全・安心」な環境整備の重視

上位には、物理的な「安全」を求める回答が複数ランクインしており、暮らしの基盤として安全性が強く意識されていることが分かる。3 番目に多かったのが「交通事故や公害、災害のない安全なまち」。日常の交通安全から、大規模災害への備えまで、多岐にわたるリスクへの対策が重要視されていることを示している。「都市施設が整い、暮らしの上で機能的なまち」も上位に入っており、単なる利便性だけでなく、インフラが整っていることが「安心」につながると考えられる。

- 自然環境と教育への一定の関心

利便性や安全・福祉といった喫緊の課題に続く形で、町の「魅力」や「未来」につながる要素にも関心が集まっている。「自然環境を保護し、緑地や田園風景を大切にした豊かな自然のまち」が上位にあり、田原本町の持つ自然や景観を維持・活用することへの期待も高いことが分かる。「子どもたちの個性や創造性を育む教育が充実したまち」も、将来の町を担う子どもたちの育成環境に対する重要な期待として挙げられている。

Q14 年齢別クロス

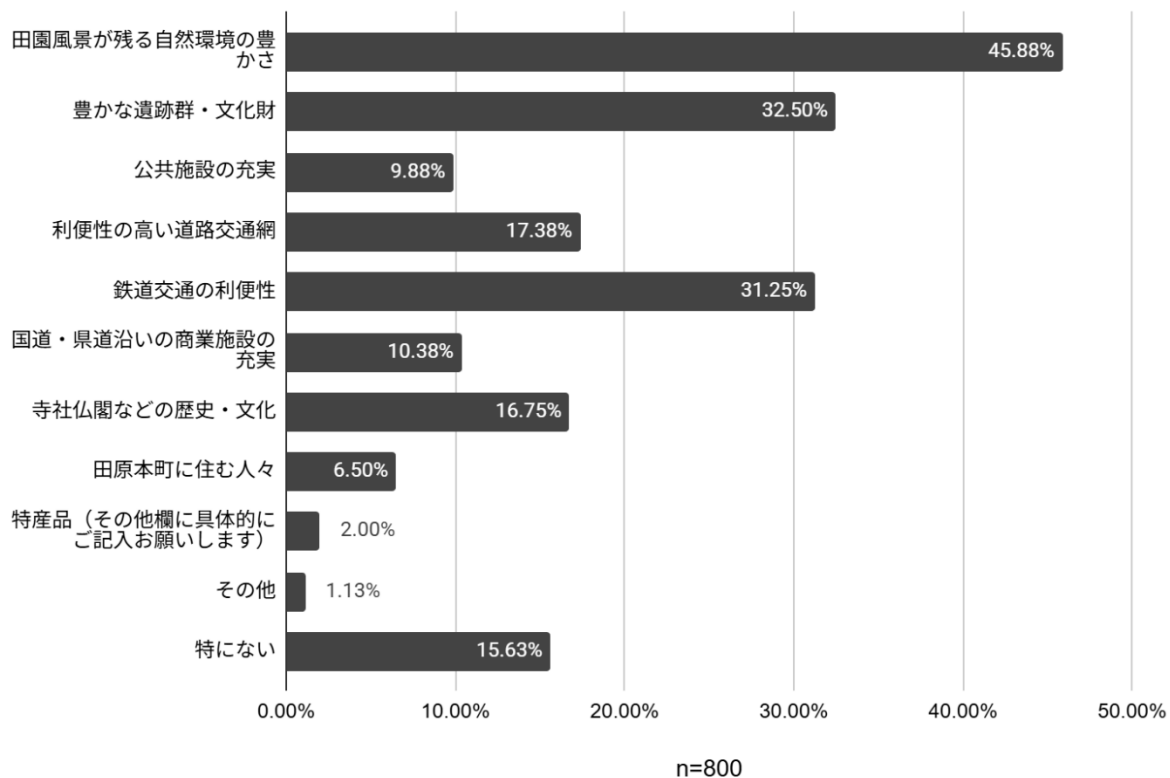


19 歳以下 (n=13)	4	2	10	12	18	12	4	0	2	9	1	2	3	3	2	0	0	1
20～29 歳 (n=67)	7	4	17	21	33	21	25	6	7	9	4	2	5	6	11	4	1	0
30～39 歳 (n=99)	7	2	18	31	38	37	38	4	22	40	6	1	2	13	7	5	1	0
40～49 歳 (n=101)	12	2	24	32	53	31	50	7	12	23	9	4	2	7	9	7	1	3
50～59 歳 (n=138)	16	10	39	34	67	48	60	17	20	17	4	1	6	15	15	8	2	1

60～69 歳 (n=142)	15	5	43	43	66	42	61	21	18	18	9	2	3	21	9	8	4	2
70～79 歳 (n=164)	21	10	49	39	74	34	77	27	15	16	6	0	9	17	19	16	4	2
80 歳以上 (n=55)	4	3	17	7	31	7	27	7	2	4	6	0	0	13	8	5	1	1

- 若年層（10 代～30 代）の特徴：都市的な利便性と教育への期待
「買い物などがしやすい、便利な生活空間があるまち」は、19 歳以下、20 代で圧倒的に高い割合を示し、30 代でもトップクラス。若い世代にとって、生活の利便性・都市機能の充実は非常に重要な要素であることがわかる。「子どもたちの個性や創造性を育む教育が充実したまち」も、19 歳以下、30 代で特に高く、子育て世代の教育への関心の高さが際立っている。
- 中年層（40 代～70 代）の特徴：福祉と安全への強いニーズ
子どもから高齢者、障がいのある人も含め、誰もが安心して暮らせる福祉のまち」は、40 代、50 代、60 代、70 代といった幅広い年代で最も高い期待を集めています。特に高齢化が進む中で、地域全体で支え合う福祉の充実は、多くの住民の共通の願いと言える。「交通事故や公害、災害のない安全なまち」は、すべての年代で高い割合だが、特に 30 代、50 代で高くなっている。安全・安心な生活環境は、世代を超えた基盤的ニーズだと考えられる。
- 高齢層（70 代・80 歳以上）の特徴：自然環境と農業への回帰・期待
80 歳以上では、他の年代と比較して「地場産業や農業の振興を図るまち」と「自然環境を保護し、緑地や田園風景を大切にしたい豊かな自然のまち」の割合が特に高くなっている。地域資源の維持・活用と、昔ながらの田園風景を大切にするという価値観が、高齢層でより強いことを示唆している。「都市施設が整い、暮らしの上で機能的なまち」は、若年層では高いものの、70 代、80 歳以上では、他の主要な期待項目に比べて割合が低下しており、高齢層は利便性よりも地域生活の安定や自然環境を重視する傾向が見て取れる。

Q15 あなたは、田原本町が誇れるもの、あるいは魅力に何があると思いますか。（3 つまで選択）



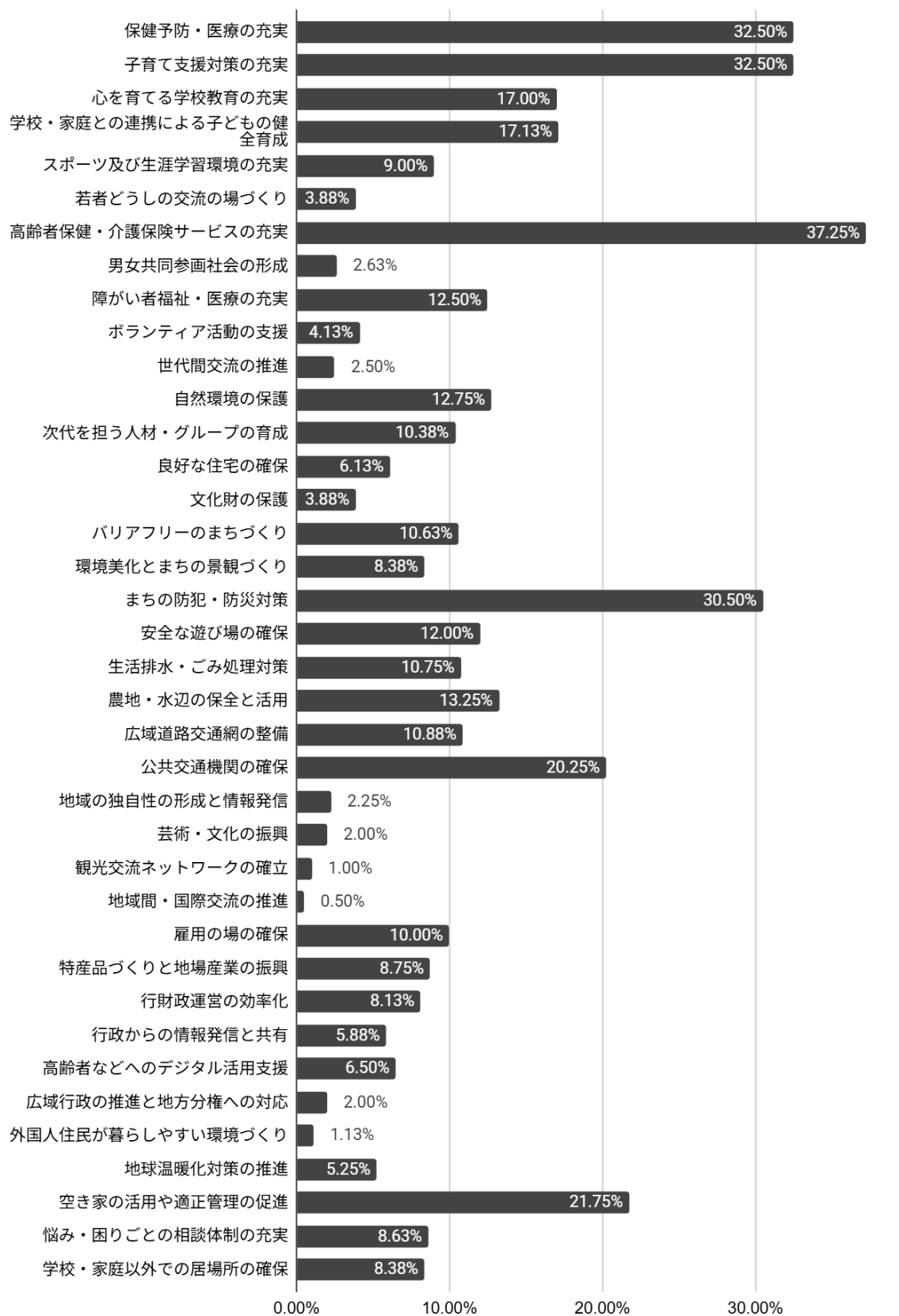
- トップは「自然」と「歴史・文化」の魅力

「田園風景が残る自然環境の豊かさ」が圧倒的な1位となり、多くの住民が町の自然環境を誇りに感じていることが分かる。2位の「豊かな遺跡群・文化財」、5位の「寺社仏閣などの歴史・文化」を合わせると、田原本町の歴史・文化資源が大きな魅力として認識されていることが分かった。

- 交通の利便性も高い評価

「鉄道交通の利便性」、「利便性の高い道路交通網」が上位にランクインしており、生活基盤としての交通インフラの充実も町の大きな魅力となっています。特に「鉄道交通の利便性」は「歴史・文化財」に並ぶ回答数であり、日常的な利便性の高さが町の評価に大きく貢献していると言える。

Q16 今後、行政と地域が一緒になって担うべきだと思われるまちづくりの施策は何ですか。（5つまで選択）



n=800

- 福祉・医療・子育ての優先度の高さ

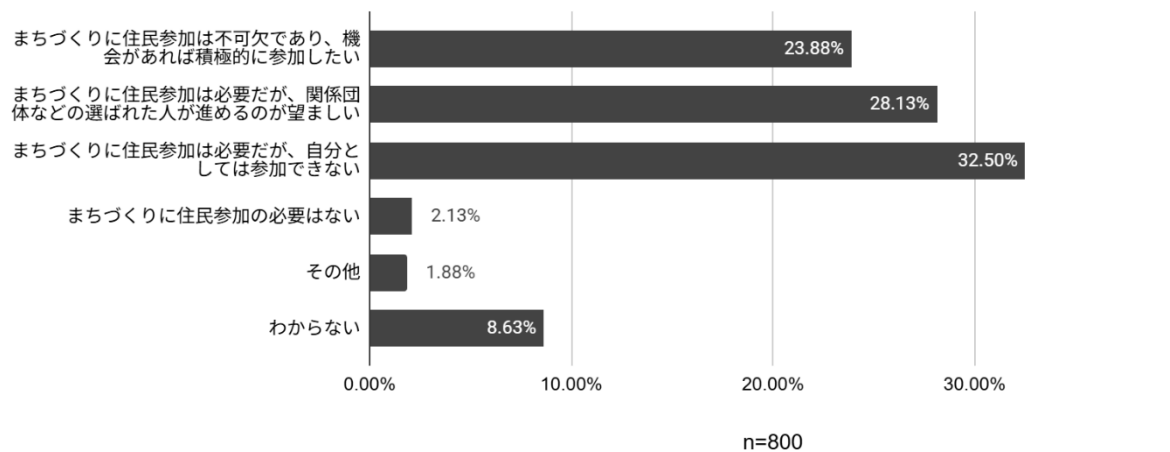
回答数1位の「高齢者保健・介護保険サービスの充実」に加え、「保健予防・医療の充実」

「子育て支援対策の充実」が同率2位となり、回答者にとって、福祉、医療、子育てといった「安心な生活の基盤」に関する施策が最優先で行政と地域が連携して取り組むべき課題として認識されている。

- 地域課題への意識

5位には「空き家の活用や適正管理の促進」が入っており、空き家問題が単なる行政課題ではなく、地域全体で取り組むべき身近な問題として認識されつつある。

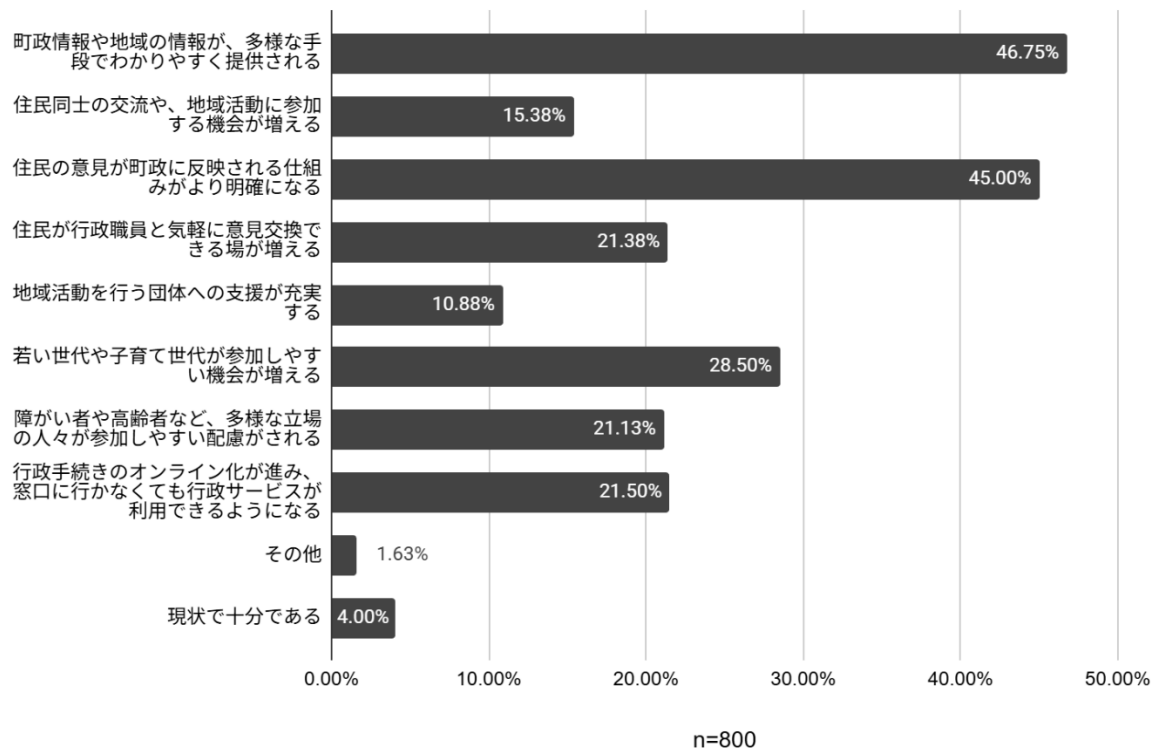
Q17 うるおいある豊かな地域社会を築いていくためには、町民がまちづくりに積極的に参加していくことがますます重要になっています。今後、あなた自身がまちづくりに参加することについてどのようにお考えですか。（いずれか1つを選択）



- 「まちづくりに住民参加は不可欠であり、機会があれば積極的に参加したい」と回答した層が全体のおよそ25%を占めている。具体的な参加機会の提供や、参加しやすい環境整備によって、まちづくりの重要な担い手となり得る「積極参加層」と見なせる。

- 一方で、最も多かった回答は「まちづくりに住民参加は必要だが、自分としては参加できない」。まちづくりの重要性は理解しつつも、時間的制約、知識・スキル不足、参加方法の不明確さなど、何らかの障壁を感じて自発的な参加を断念している層が最も厚いことを示唆している。行政としては、短時間で負担の少ない形での関与（例：アンケート、オンライン意見交換など）の機会を増やすこと、また「積極参加層」に対しては、多様で継続的な役割を提供することが効果的であると考えられる。

Q18 町民が、より積極的にまちづくりに参加するためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。（複数回答可）



● 「情報公開」と「意見反映」の仕組みが最優先事項

「町政情報や地域の情報が、多様な手段でわかりやすく提供される」が最も多く、次いで「住民の意見が町政に反映される仕組みがより明確になる」となった。町民は「何が起きているか（情報）」を知り、「自分の声はどう活かされるか（反映）」を明確にすることを、参加の第一歩と考えていることがうかがえる。

● 参加の機会と利便性の確保も重要

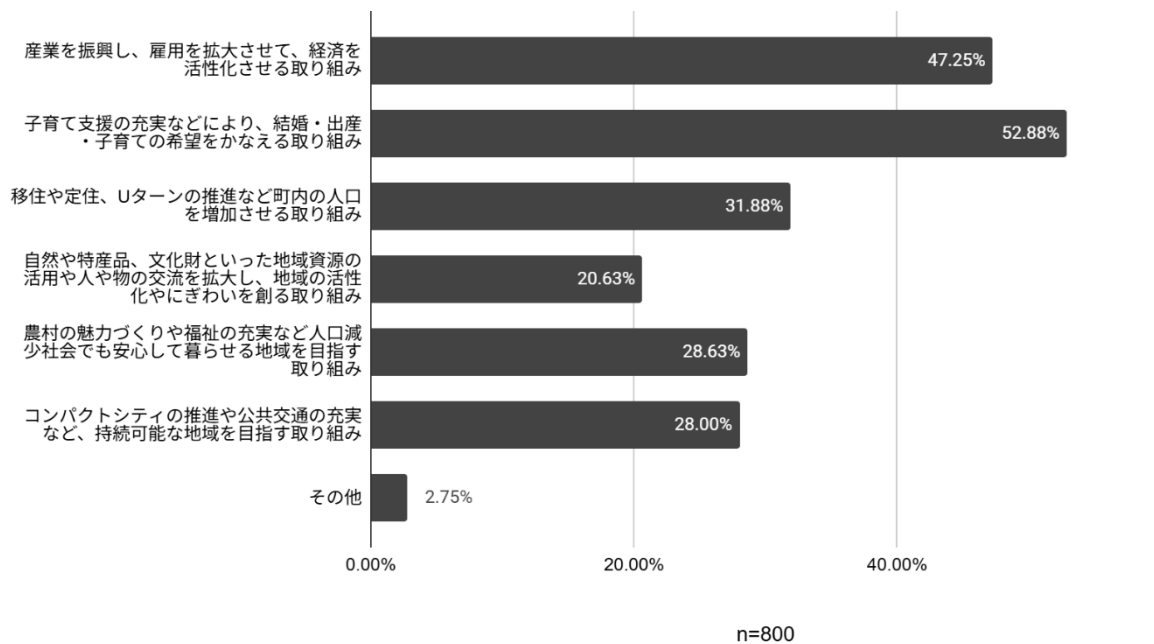
次に票を集めたのは、「若い世代や子育て世代が参加しやすい機会が増える」。既存の参加形態が特定の世代に偏っている、または、これらの世代のライフスタイルに合わせた参加方法（時間帯、場所、オンラインなど）が不足していることを示唆している。

● 「参加へのインセンティブ」は比較的低い

「まちづくり活動への参加者に対し、特典や謝礼などインセンティブが用意される」や「まちづくり活動に参加することで、町民同士のつながりが深まる」は比較的低い順位にとどまって

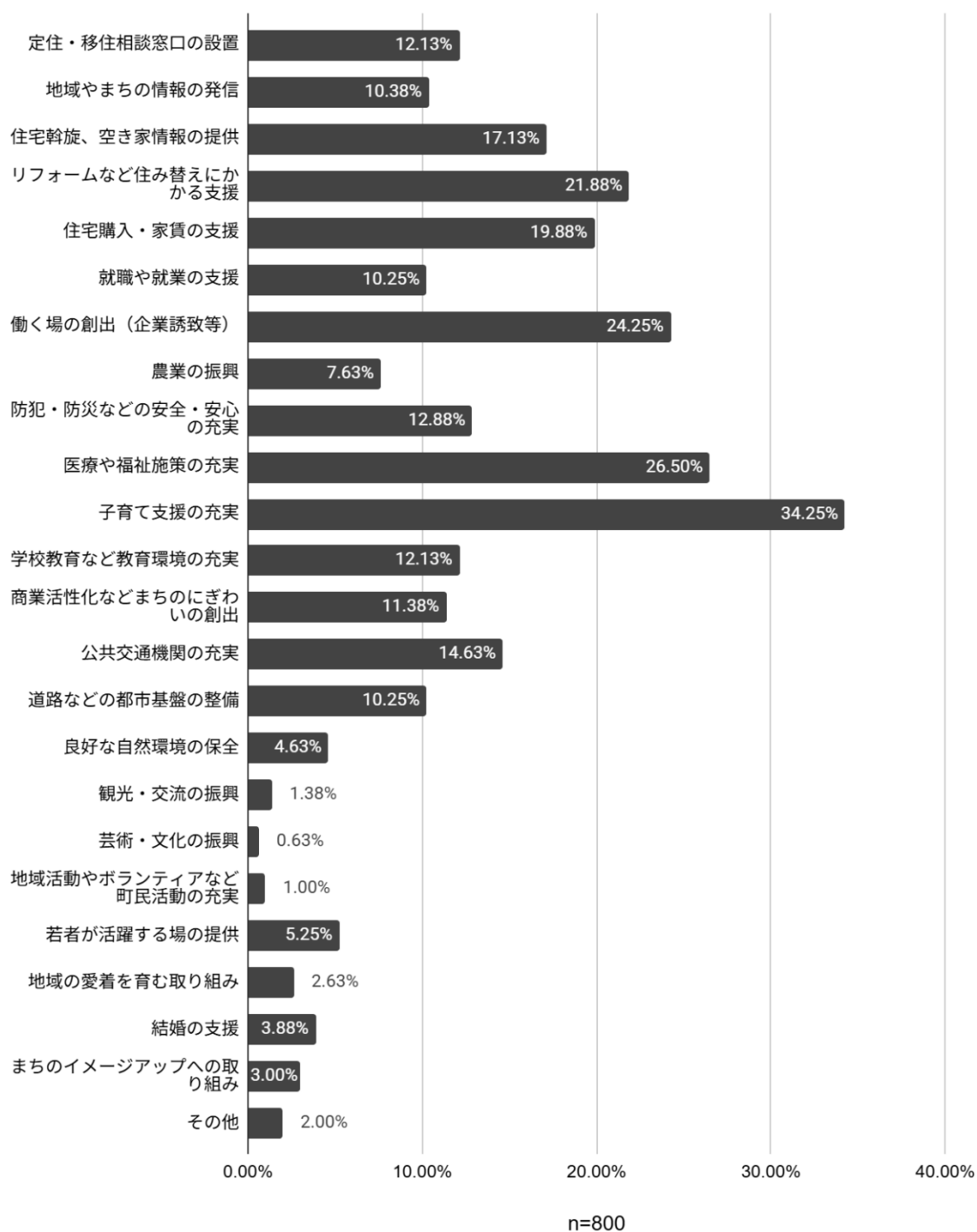
いる。町民は金銭的・物質的な動機よりも、「まちづくりへの貢献」や「透明性・納得感」を重視している傾向があると考えられる。

Q19 人口減少を克服し活力ある社会を目指して、田原本町が今後最も力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。（3 つまで選択）



住民は「子育て支援による内発的な人口増加」と「経済活性化・移住定住による外発的な人口増加」の両面を重視しつつ、その基盤として「福祉の充実と持続可能なまちづくり」を求めていることが読み取れる。

Q20 定住・移住してもらうために田原本町が今後行えばよいと思う取り組みは何ですか。（3 つまで選択）



● 子育て・教育環境の整備が最優先

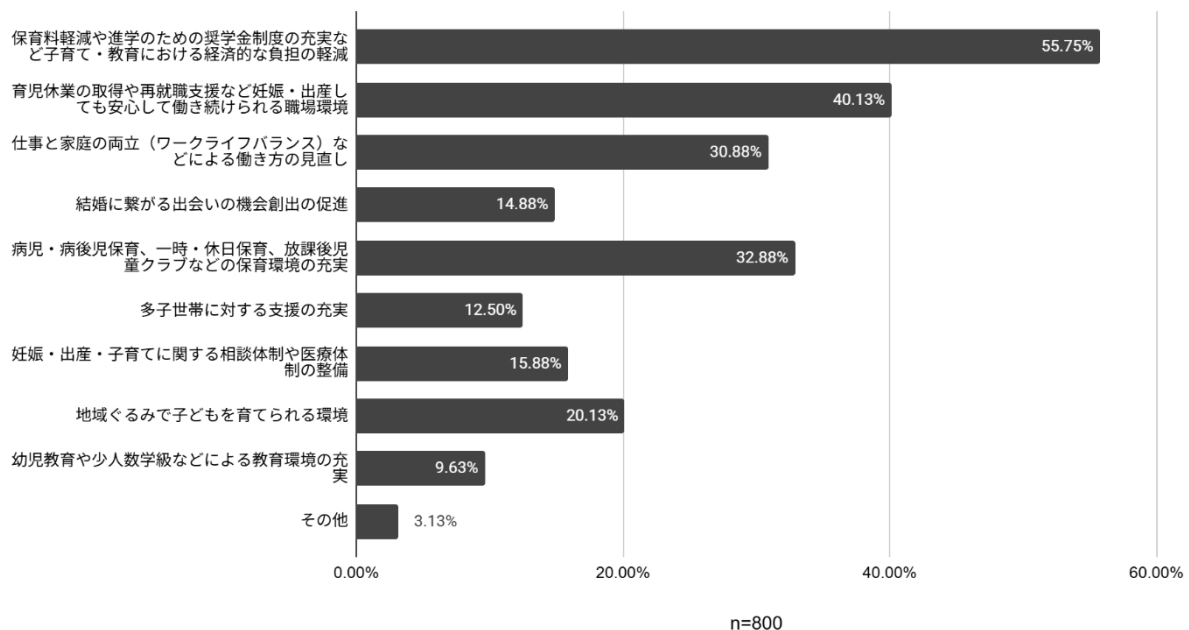
「子育て支援の充実」が圧倒的な1位であり、子育て世代の定住・移住を促す上で最も重要な施策と認識されている。これに「学校教育など教育環境の充実」も加わると、子どもを安心して

て育てられる環境が整っていることが、町に住み続ける、あるいは移住する際の最大の動機になることが考えられる。

● 住宅・住環境への直接的な支援のニーズ

「リフォームなど住み替えにかかる支援」、「住宅購入・家賃の支援」、「住宅斡旋、空き家情報の提供」が上位を占めており、住宅に関する直接的な経済的支援や情報提供が、定住・移住へのハードルを下げるために有効だと考えられている。

Q21 これから少子化に歯止めをかけるため、田原本町はどういった取り組みに力を入れるべきだと思いますか。（3つまで選択）



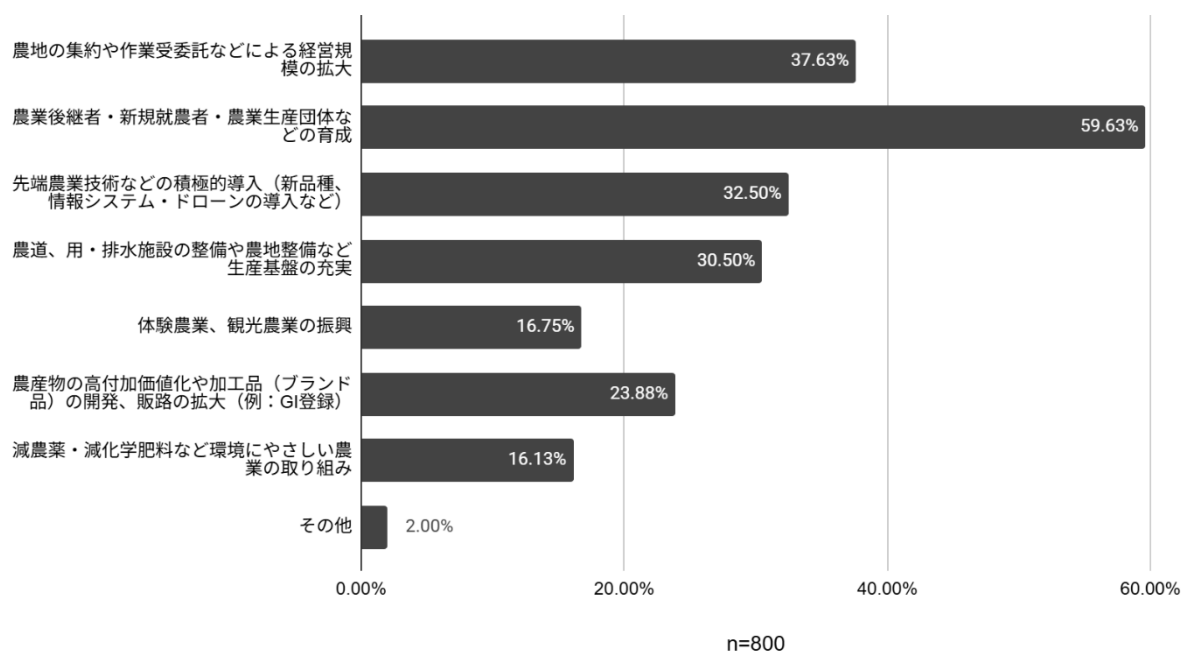
● 経済的な負担軽減が最優先事項

最も多くの回答を集めたのは「保育料軽減や進学のための奨学金制度の充実など子育て・教育における経済的な負担の軽減」。子育てや教育にかかる費用に対する町の直接的な支援が、少子化対策として最も強く求められていることがわかる。

● 保育サービス拡充のニーズ

3位の「病児・病後児保育、一時・休日保育、放課後児童クラブなどの保育環境の充実」から、既存の保育サービスに加え、多様なニーズに対応できるきめ細かなサービス拡充への期待が高いことが示唆される。

Q22 あなたは、田原本町の農業振興のために、今後何に力を入れるべきだと思いますか。（3つまで選択）



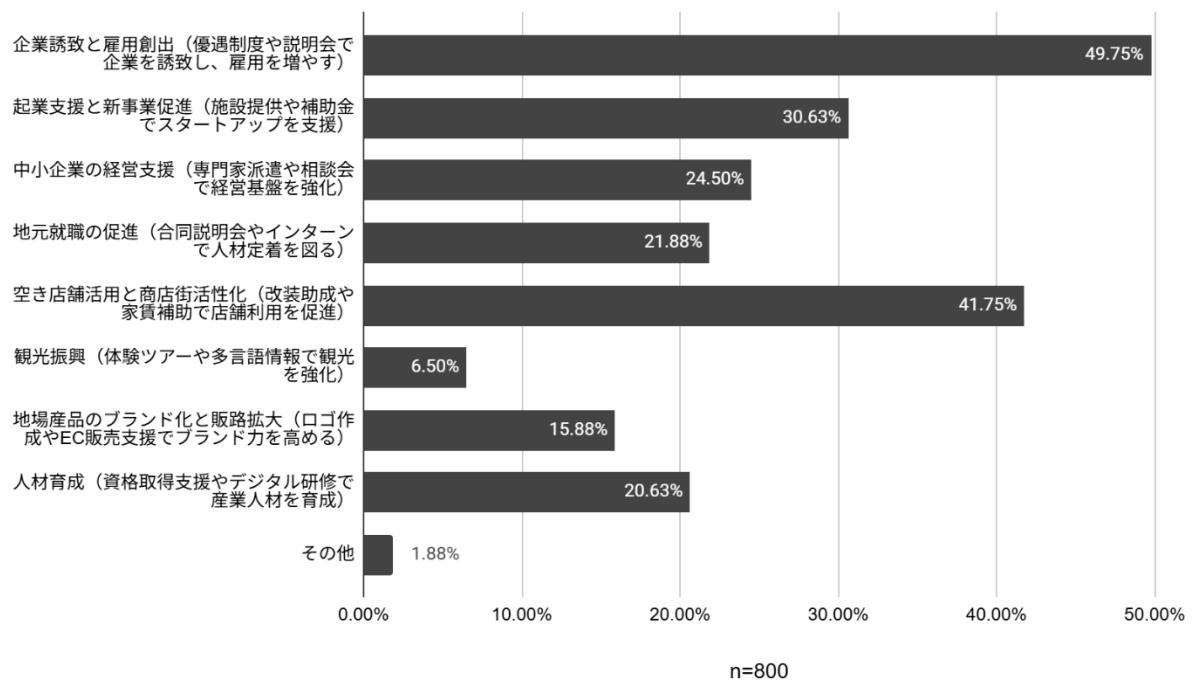
● 担い手の育成が圧倒的な最優先事項

「農業後継者・新規就農者・農業生産団体などの育成」が全回答項目の中で最も多く、全体の約3分の1（約30.6%）を占めている。持続可能な農業を実現するための最も喫緊の課題として、人材確保が強く認識されていることを示している。

● 「効率化」と「技術導入」による経営強化の要望が高い

次いで多かったのは、「農地の集約や作業受委託などによる経営規模の拡大」と「先端農業技術などの積極的導入（新品種、情報システム・ドローンの導入など）」。労働力不足や競争力強化の観点から、規模拡大やスマート農業化といった、農業経営の効率化・近代化への期待が大きいことを示唆している。

Q23 あなたは、田原本町の商工業推進のために、今後何に力を入れるべきだと思いますか。（3つまで選択）



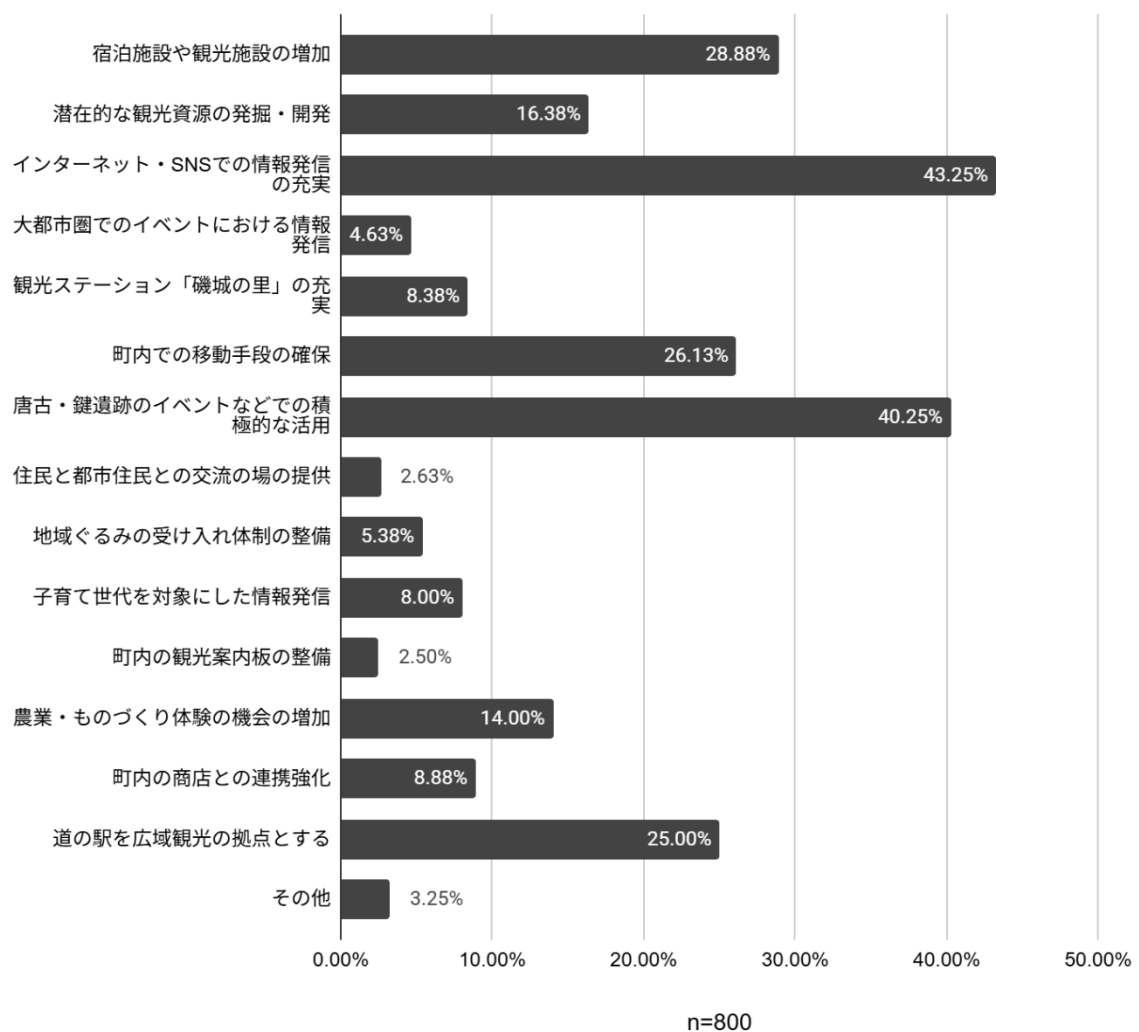
- 最も重視されているのは「企業誘致と雇用創出」

「企業誘致と雇用創出（優遇制度や説明会で企業を誘致し、雇用を増やす）」が最多の回答となった。地域経済の基盤強化、安定した雇用機会の創出による人口定着・増加への期待が非常に大きいことを示している。

- 商店街の活性化と起業支援も重要

2 番目に多かったのは「空き店舗活用と商店街活性化（改装助成や家賃補助で店舗利用を促進）」。町民は、日常の買い物や交流の場である既存の商店街の衰退に危機感を持ち、具体的な補助策による活性化を強く望んでいることがうかがえる。

Q24 あなたは、田原本町を訪れる訪問客(観光やイベント参加)及びそこから生まれる消費を増やすには何をすればよいと思いますか。（3 つまで選択）



- 情報発信と主要資源の活用が二大柱

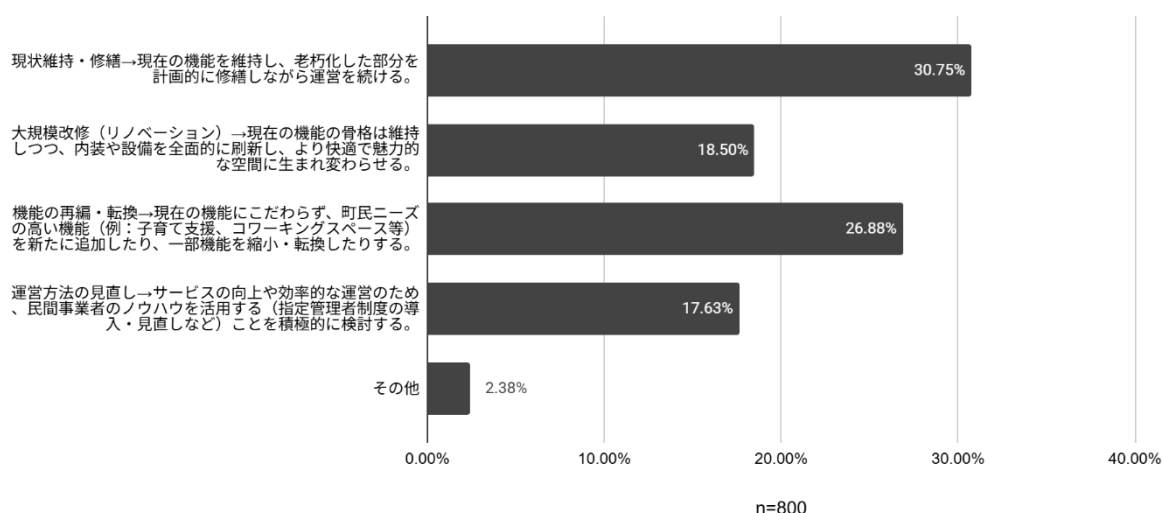
「インターネット・SNSでの情報発信の充実」が最も多く、現代において集客に不可欠なデジタルマーケティングへの期待が高いことが示されている。次いで「唐古・鍵遺跡のイベントなどでの積極的な活用」が挙げられ、町のシンボルである唐古・鍵遺跡を核とした具体的な集客イベントの実施を強く望んでいることが分かる。

- 観光基盤の整備に対する要望

情報発信やコンテンツの活用に加えて、観光インフラの整備も重要視されている。「宿泊施設や観光施設の増加」が3位にランクインしており、滞在時間の延長と消費拡大に直結する施設の不足を感じている可能性がある。「町内での移動手段の確保」も高い割合を示しており、町

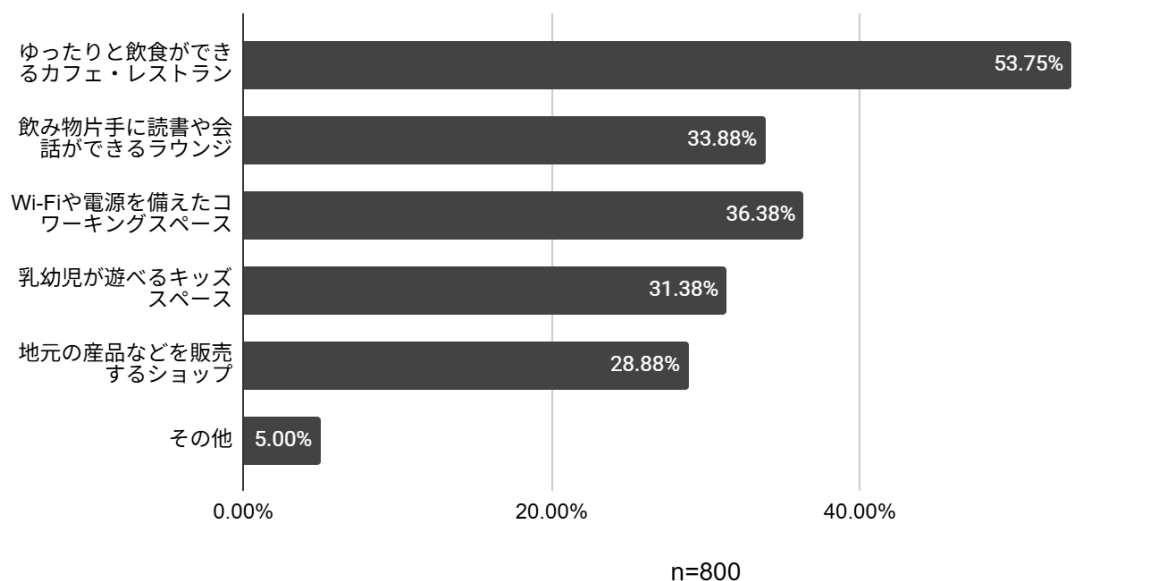
内をスムーズに移動できる交通手段の整備が、観光客の利便性向上に不可欠であると認識されている。

Q25 青垣生涯学習センターは年間 20 万人以上が利用する町の主要施設です。建設から 20 年が経ち、町では改修を含めた「知と交流の拠点」としてのあり方を検討しています。施設の将来について、あなたの考えに近いものを選んでください。（いずれか 1 つを選択）



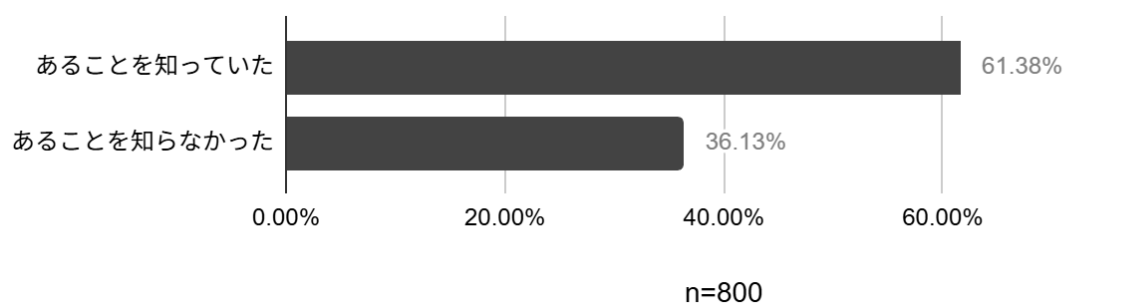
町民の意見は、「現在の機能を維持したい」という保守的なニーズと、「時代に合わせた新しい価値や魅力を創出してほしい」という革新的なニーズに二分されていると言える。特に、「機能の再編・転換」の具体的な例として示されている「子育て支援、コワーキングスペース等」といった町民ニーズの高い機能の追加は、「現状維持・修繕」に次ぐ支持を得ており、施設の改修を検討する上で最も重要な論点の一つになり得る。

Q26 もし施設を改修したり、機能を追加したりする場合、どのようなスペースや機能があれば利用してみたいですか。（複数回答可）



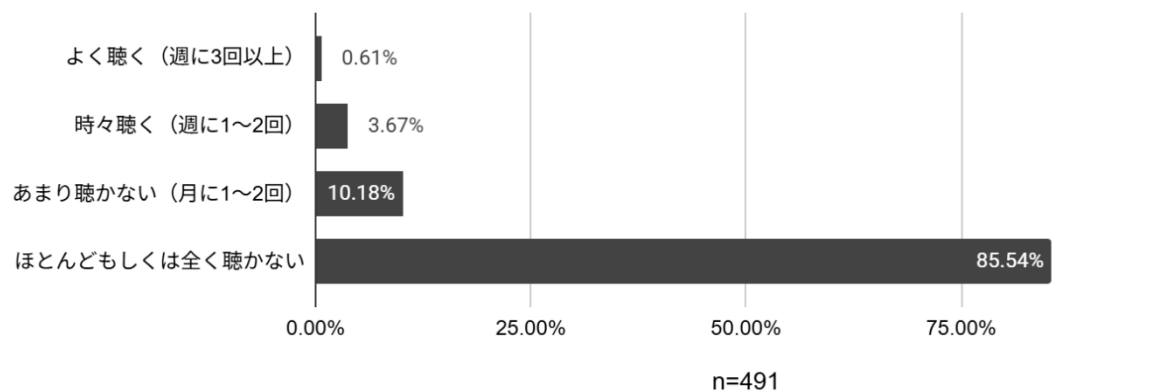
青垣生涯学習センターの改修・機能追加においては、「食・くつろぎ」を充実させつつ、「新しい働き方・交流」の場と、「地域・子育て」に配慮した機能を取り入れることが、幅広い世代の利用促進につながると言える。

Q27 田原本町がスタジオや設備を整備し、近畿地区初の“公設民営型”コミュニティ FM 局として開局した「FM まほろば」について、当てはまるものを選んでください。（いずれか1つを選択）



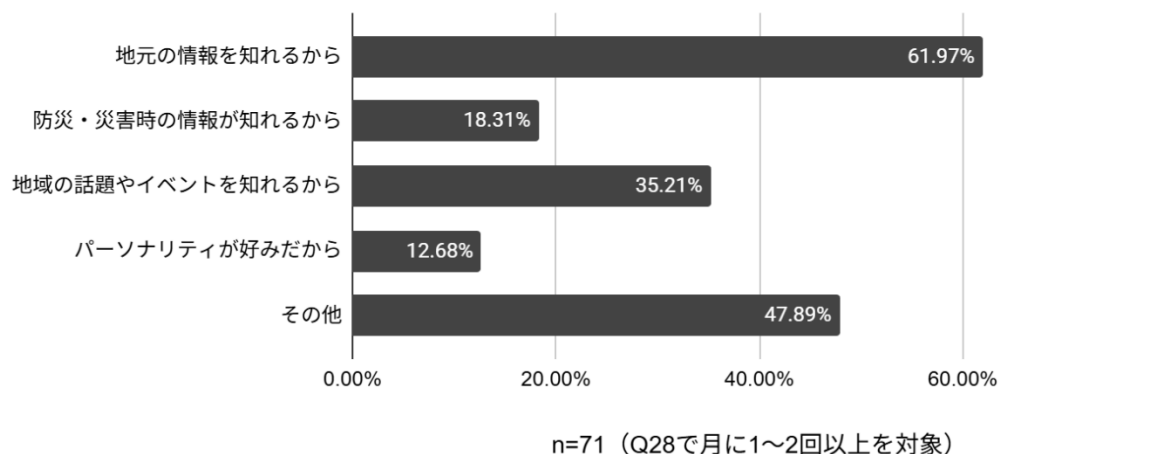
約4割が「知らなかった」と回答していることから、従来の広報媒体だけでなく、若い世代や特定の情報源を利用しない層に対しても、効果的な広報手段（例：広報誌の目立つ場所への掲載、自治会を通じた周知、デジタルサイネージの活用など）を検討し、情報発信を強化する必要がある。

Q28 Q27で「あることを知っていた」とお答えの方におたずねします。聴く頻度はどれほどですか。（いずれか1つを選択）



存在を知っていても利用されていないという事実は、今後の FM まほろばの運営において、「認知度向上」ではなく「聴取意欲の向上」や「魅力的なコンテンツの提供」が最大の課題であることを示している。聴取頻度を上げるためには、コンテンツの内容、放送時間帯、広報戦略など、番組制作から情報発信に至るまでの抜本的な見直しが必要であると考えられる。

Q29 FM まほろばを聴いたことがある方は、理由を教えてください。（複数選択可）



FM まほろばは、地域情報、防災情報、行政情報という3つの柱を軸に、その価値を最大化していくことが、さらなる聴取者増加につながると言える。

2-5 その他

Q30. その他、まちづくりについてご意見やご要望がございましたら、ご自由にご記入ください。